

外国語－５（第２学年） 読んだ内容について理由とともに自分の考えを書く事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Unit5 A Park or a Parking Area?」

2 単元の目標

- 積極的に自分の考えを伝えようとしたり，相手の考えを理解しようとしたりする。
- 英字新聞の記事を読んで，理由とともに自分の考えを発信する。
- 英字新聞の記事を読んで，その考えを理解する。
- 接続詞 if, that, because, when を用いた文の意味・構造を理解する。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

- ・勉強と部活動はどちらが大切だと思うか，積極的に自分の考えを伝えようとしたり，相手の考えを理解しようとしたりしている。

【外国語表現の能力】

- ・勉強と部活動についての英字新聞の記事を読み，どちらが大切だと思うか理由とともに自分の考えを発信することができる。

【外国語理解の能力】

- ・勉強と部活動についての英字新聞の記事を読み，その考えを理解することができる。

【言語や文化についての知識・理解】

- ・接続詞 if, that, because, when を用いた文の意味・構造を理解している。

4 教材

本事例の教材は，教科書にある駐輪場建設計画について書かれた英字新聞の記事を基に，その中で用いられている新出表現を織り込みながら授業者が作成した「勉強と部活動はどちらが大切か」という仮想の記事である。生徒はそれを読み，どちらが大切だと思うかを理由とともに述べ，他の生徒と意見を交換し，それを基に自分の意見と英語表現を深めることのできる教材である。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全7時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一時 第二時 第三時 第四時 第五時 第六時 第七時 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mike に送られた Fax を読む。 ・ if を用いた文の意味・構造を知り，自己表現の中で使用する練習をする。 ・ Mike と Emi の会話を理解し，I think that ~の文を練習する。 ・ 市の計画についての記事を読む。 ・ 市の計画に反対する投書を読む。 ・ when, because を用いた文の意味・構造を知り，自己表現の中で使用する練習をする。 ・ 勉強と部活動はどちらが大切だと思うかについて，自分の意見を書く。 ・ 勉強と部活動について意見交換をした後，再度自分の意見を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二・三・六時の新出表現の練習は段階を踏んで丁寧に行う。練習の中で新出表現を用いた文を自分の考えで作らせ，自己表現に結び付ける。授業後，教師はその英文を回収して添削し，その表現の使い方について理解を深めさせる。 ・ 新出表現の練習に用いる例文の中に部活動と勉強の大切さについて述べた文を織り込み，第七時に行う言語活動の土台とする。

(2)本時の学習（7/7時間）

目標：前時に書いた自分の意見を他の生徒と交換した上で，再度意見を書く。

展開：

- ① 4人グループ内で自分の意見を読み上げる。
- ② グループの意見をまとめ，数行の英文で画用紙に書き出し，黒板に掲示する。
- ③ 各グループの意見を全体で読み上げ，様々な意見を知る。
- ④ ③を参考に最後にもう一度自分の意見を書かせ，自分の意見と英語表現を深める。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 エ 書くことの(ウ)には「自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」が、また、ウ 読むことの(ウ)には「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。」が加えられた。

本指導事例は、勉強と部活動はどちらが大切かというテーマについて書かれた英文を読み、それについて自分の生活や将来の夢にも触れながら、根拠を示して自分の考えを書くという活動で、まさに新学習指導要領の「読むこと」「書くこと」に新たに付け加えられたこれらの指導事項に合致するものである。

【言語活動の充実の工夫】

①基礎基本の定着と自己表現

語彙や新出表現の定着は、自分の考えを表現するための大切な柱である。そのための練習を段階を踏んで丁寧に行うのはもちろんだが、その際、用いる例文の内容を十分考慮し、勉強と部活動はどちらが大切かについて述べた例文を少しずつ取り入れ、第七時に行う言語活動につなげていく。

また、単なるドリル練習で終わらないよう、各時間の最後に新出表現を用いて自分の考えを表す英文を作成させる。

②言語活動の話題の選定

生徒が活発に言語活動を行うためには、英語表現の定着を図ることはもちろん、生徒が自分の意見を言いたい、他の人の意見を聞いてみたいと思うような生徒の興味に即した話題を選ぶことが欠かせない。本単元の話題は公園の保存と駐輪場の建設だが、この指導事例が実践された学校の付近には駅や駐輪場がなく、生徒にとっては身近な話題とは言えなかった。そこで、言語活動の話題を「勉強と部活動のどちらか一つを選ぶとしたらどちらが大切か」と設定した。中学2年生にとって、勉強は大切だが、自分が中心となって活躍している部活動も同じように大切である。生徒の生活に即した内容を話題に設定したことで、生徒は意欲的に言語活動に取り組んでいた。

③学習形態の工夫

本指導事例の主な活動形態は4人グループである。4人グループ内で一人ずつ自分の意見を読み上げ、お互いに聞き合う。その後、グループとしては勉強と部活動のどちらを大切と考えるか意見をまとめ、画用紙に書き出す。なお、この場面においては、積極的に自分の考えを伝えようとしたり、相手の考えを理解しようとしたりしているかについて、コミュニケーションへの関心・意欲・態度の観点から活動の観察によって評価する。こういったグループ学習の形態を取り入れることにより、意見交換に生徒が意欲的に取り組むことができるような工夫をしている。

この活動を円滑に進めるためには、日頃からペアやグループで協力して課題に取り組んだり、意見を交換したりするなどの活動を継続して行うことが大切である。本指導事例では、第一時から単語練習、音読練習、Q and A、文型練習などを行う際にも生徒が関わり合って学習する場面が随所に見られ、それが第七時の言語活動の活性化につながった。

④考えを深める工夫（個人→グループ→学級全体→個人）

本指導事例では、勉強と部活動はどちらが大切かというテーマについて、生徒は最初に自分の意見を書いた。次に、それをグループ内で発表し、お互いの意見を交換した。そして、グループとしての意見をまとめて画用紙に書き、学級全体で共有した。個人→グループ→学級全体という流れである。学級全体で意見を共有したときは、他のグループの意見を熱心に聞き、クラスメートから出された見事な英語表現を目にした時は、驚嘆の声が聞かれた。普通ならここで言語活動は終わりそうだが、本指導事例では最後にもう一度個人に返し、様々な意見を聞いて自分はどう思うか改めて書かせることで、考えを深め、それを表現することで英語の運用力も高まった。学級全体の発表は活発に意見を交換して盛り上がることで生徒も教師も満足してしまいがちだが、学んだことを最後に個人に返すことで、自立して英語を活用できるようになる。

思考力・判断力・表現力等の学習活動の分類：①、②、④（※分類番号はP5表参照）